

令和4年度県立学校長研究協議会 教育長あいさつ

令和4年10月14日（金）
エスポワール愛媛文教会館大ホール

本日は、皆様お集まりのもと、令和4年度県立学校長研究協議会を3年ぶりに対面で開催できますことを大変嬉しく思いますとともに、県立学校はもとより、国立・私立学校からも、学校長の皆様に御参加いただき、誠にありがとうございます。

皆様におかれましては、コロナ禍が2年半以上にも及ぶ中、生徒の学びの保障に向けて、感染防止対策と教育活動の両立に、教職員一丸となって取り組んでいただいておりますことに、深く敬意を表しますとともに、厚くお礼を申し上げます。

御案内のとおり、本年度入学生から実施されている新学習指導要領を踏まえ、各学校においては、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善や、地域と連携した学校の魅力化といった取組みに加え、「社会に開かれた教育課程」という理念を学校と地域が共有し、社会で求められる資質・能力を全ての生徒に育み、未来の創り手として送り出していくことが、これまで以上に求められております。

こうした中、県教育委員会では、生徒数の減少や社会の変化、生徒の多様化など、県立高校等を取り巻く課題に対応するため、一昨年度から、学校の適正規模や配置の考え方、魅力化の在り方について協議を進め、この7月に「県立学校振興計画（案）」を公表しました。現在、地域住民の方々を対象に2回目の地域説明会を開催しており、今後、パブリックコメントを経て、年明けには決定・公表のうえ、4月からの実施を目指しているところであります。計画の実施に当たっては「生徒ファースト」の視点を何よりも優先させながら、夢の実現を目指す子どもたちに、心から通いたいと希望されるような学校、地域や住民に愛され続ける学校、そして、他にはない魅力と個性を兼ね備えた誇れる学校づくりに、強い覚悟を持って全力で取り組む所存であります。計画案に係る県教育委員会の考え方については、県議会で御説明しているほか、新聞等でも報道されておりますので、計画案と併せて再度御確認いただき、振興計画の策定と、円滑な実施に向けまして、引き続きの理解と御協力をお願いいたします。

また、来たるべき「Society5.0時代」を担う人材を育成するためには、「ICTの効果的な活用による学びの充実」が重要であると考えており、子どもたちが1人1台端末を、授業の中で、鉛筆やノートなどの学習道具と同様、自然に、当たり前のように活用できるよう、今後も研究を進めていただくとともに、教員全体の更なるスキルアップを目指していただきますようお願いいたします。

本日は、この後、滋賀大学大学院の大野裕己（おおの やすき）教授に、これからの学校経営方式の在り方について御講演いただくと伺っており、学校を取り巻く環境の変化を踏まえた今後のスクール・ポリシー策定の一助としていただきたいと期待しております。

終わりになりますが、皆様方には、引き続き、地域に愛され、信頼される学校づくりに加えて、教職員一人一人の働き方に配慮した、働きやすい職場環境づくりにも取り組んでいただきますようお願いいたします。

本日の研究協議会が実り多いものとなりますことを祈念いたしまして、開会の挨拶といたします。